

令和4年度 公共用水域および地下水の水質の常時監視結果の概要

国土交通省、県および福井市では、水質汚濁防止法の規定に基づき、公共用水域および地下水の水質汚濁の状況を把握するため、常時監視を実施しています。

令和4年度の調査結果の概要は以下のとおりです。

1 公共用水域

公共用水域の水質の常時監視を115地点（河川60、湖沼16、海域39）で実施しました。その結果は、次のとおりです。

- ① 人の健康の保護に関する環境基準^{*1}（健康項目^{*2}）の達成率は100%でした。
- ② 生活環境の保全に関する環境基準（生活環境項目^{*3}）については、次のとおりです。
 - 河川のBOD^{*4}（生物化学的酸素要求量）の達成率は100%でした。
 - 湖沼のCOD^{*5}（化学的酸素要求量）の達成率は38%でした。
 - 海域のCODの達成率は100%でした。

2 地下水

地下水の水質の常時監視を概況調査^{*6}30地区、継続監視調査^{*7}31地区で実施しました。その結果は、次のとおりです。

- ① 概況調査において、環境基準を超過して検出された地点はありませんでした。

概況調査でふっ素が検出された1地区については、汚染井戸周辺地区調査を実施し、1地点において環境基準を超過するふっ素が検出されました。
- ② 継続監視調査のうち、過去に環境基準を超える地下水汚染が確認された31地区において、20地区で環境基準を達成しました。

環境基準を超過した11地区を汚染原因別にみると、トリクロロエチレン等による人為的原因が6地区、砒素による自然的原因が6地区でした。（1地区は両方の汚染がある。）

- * 1 環境基準： 環境上の条件について、人の健康を保護し、および生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準として、環境基本法第 16 条の規定に基づき定められたものであり、環境基準を超過したとしても、直ちに人の健康に影響を及ぼすものではありません。
- * 2 健康項目： 人の健康の保護に関する項目。カドミウムや水銀等の重金属、PCB やトリクロエチレン等有機塩素系化合物など 27 項目が設定されています。
- * 3 生活環境項目： 生活環境の保全に関する項目。有機汚濁の指標となる BOD や COD、富栄養化の指標である窒素やリンなど 13 項目が設定されています。
- * 4 BOD： 水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素量で、河川の有機汚濁を測る代表的な指標です。数値が大きいほど、汚濁が進んでいることとなります。
- * 5 COD： 水中の有機物を酸化剤で化学的に分解した際に消費される酸素量で、湖沼、海域の有機汚濁を測る代表的な指標です。数値が大きいほど、汚濁が進んでいることとなります。
- * 6 概況調査： 県内の全体的な地下水質の状況を把握するために実施する調査であり、年 1 回調査しています。
- * 7 継続監視調査： 地下水汚染が発見された地区の地下水を継続的に監視し、水質の経年的な変化や浄化対策の効果を把握するために実施する調査であり、汚染が確認された項目等について、年 1～2 回調査しています。

地下水の水質の測定結果

(1) 概況調査

単位：mg/L

調査 地区数	環境基準 超過地点数	汚染物質	測定値	環境基準
30	0	—	—	—

(2) 継続監視調査

単位：mg/L

調査 地区数	達成状況 (地区数)	汚染物質	超過要因	環境基準* ¹ 超過地区数	年平均値* ²	環境基準
31	達成 (20)	—	—	—	—	—
	未達成 (11)	砒素	自然	6	0.013~0.18	0.01
		硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	人為	1	11	10
		六価クロム		1	0.20	0.02
		総水銀		1	0.015	0.0005
		クロロエチレン		1	0.0049	0.002
		トリクロロエチレン		2	0.011~0.11	0.01
		テトラクロロエチレン		1	0.083	0.01
		ベンゼン		1	0.059	0.01

* 1 同一地区において複数物質の汚染があるため、環境基準超過地区数は延べ数

* 2 各地区の最高濃度検出地点の年平均値（複数の地区がある場合はその範囲）